

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 26 年 12 月 12 日)

【一八】子貢曰く、管仲は仁者に非ざるか。桓公 公子糾を殺すに、死すること能わず。又之を相くと。子曰く、管仲は桓公を相け、諸侯に覇たらしめ、天下を一匡す。民 今に到るまで其の賜を受く。管仲 微かりせば、吾 其れ被髪左衽せん。豈 匹夫匹婦の諒を為し、自ら溝瀆に経れて、之を知らるること莫きが若くならんやと。

子貢が孔子に「管仲が仁者ではないと思うけれど、先生はどうお考えでしょうか」と聞いた。桓公が公子糾を殺した時に、殉死をしなかったのではないか、なおかつ桓公の仕事が大いに助けた。これは仁者とは言えないのではないかと聞いた。

孔子は、「管仲は桓公を助けて天下の覇者にさせた。天下を一挙に改革をしていく、こういう仕事はなかなか出来ることではない。国民は現在まで管仲の恩恵を受けている。むしろ管仲がいなかったら我々は大変なことになるだろう」という返事をした。

管仲がもしいなければ、お前もそうだし、私もそうだ。襟を左前に着るだろうし、髪もざんばら髪になってしまうだろう。野蛮人の風俗にみなさせられてしまう。そうならないで文化人としての服装態度、生活が守ることができたのは管仲のお陰ではないか。いわんや一般の国民と同じように死んだら溝に葬りこまれて、そういう人物がいたというのが分からなくなる。一般人と同じような扱いをしてよいのだろうか。

「溝瀆に経れて」は、首吊り自殺をして溝に葬りこまれるということです。

さて、そうすると今の時代に置き換えてみます。安倍さんが再度総理大臣になって、今の日本をどんどん改革中ですが、はたしてこれは日本のためになる事をしているのかと考える必要があります。これから選挙ですが、一票を投じるかどうか、そこら辺でこの件を判断すればよいでしょう。

もしも安倍総理が、この時代の総理でなければ、これから先の 10・20 年後、我々は外国の植民地にさせられてしまっ、今の生活からほど遠い生活になってしまう可能性がある。はたしてそうなるか否かになってしまったら、どうなるか。ならなかったらどうなるか、ということでここら辺の文章は考えればよいでしょう。